



所有者への調査の結果等は

答弁 多くが管理を委ねたいとの意向です

Q 所有者への意向調査の結果、見えてきた課題は。

A 環境農林課長 回答者の7割以上が「今後の経営管理を町または森林組合等に委ねることを検討している」と意向を示されています。

A 環境農林課長 都市部と山側の自治体が連携し、森林整備や木材利用等を行い森林の公益的機能の維持や発揮を図るため「埼玉県山と町をつなぐサポートセンター」が設置され、鶴ヶ島市と「ゼロカーボンシティの実現に向けた森林の保全に関する協定」を締結し活動しています。

Q 経営管理を町に委ねる場合、町はどう対応するのか。

A 環境農林課長 経営管理集積計画を作成し、経営管理権を設定することになります。林業経営として採算が合わない森林や、町の人員体制、財政状況等を踏まえると、町の経営管理権の取得に関しては現在実施中である意向調査・現況調査を進める中で、森林の採算性や持続的に管理が可能であるかを調査し、将来に向け段階的かつ慎重に判断していきます。



豊かな森林資源を次世代へ



社協へのスムーズな移行は

答弁 スムーズに移行ができたと考えています

Q 社会福祉協議会に対する保育園運営の民間移行は、スムーズに行われたか。

A 子育て支援課長 令和7年度から町職員を1人派遣し、移行事務の円滑化を図ってきました。計画的かつ段階的に準備を進め、スムーズに移行ができたと考えています。

Q 保育の質・保護者対応・園内の安全管理等は十分か。

A 子育て支援課長 国の職員配置基準より手厚く配置し、質の高い保育を実施しています。また、保護者対応は、信頼関係を深め、安心につながる対応に努めています。安全管理については、タブレット端末を導入し、登降園の管理ができるようになりました。

Q 老朽化する各園舎への対策は



民間移行した大河保育園

どんなときも元気に明るく頑張っていきたいと思います。(A・Sさん)

臨機応変に対応できるように、経験を積んでいきたいです。(K・Eさん)



周辺整備を示すべきでは

答弁 関係機関と段階的に進めていきます

Q 環状1号線未整備区間（県道熊谷小川寄居線と町道209号線、約0.3キロメートル）の事業実現に当たり、町が積極的に当該事業地および周辺整備の具体を示すべきでは。

A 都市政策課長 道路の機能を最大限に生かす周辺整備について、関係機関と段階的に進めていきます。

Q バイパスや環状線沿いには企業が注目している。町長が公約した企業誘致につながる取組は。

A にぎわい創出課長 大きな壁である農地法や都市計画法上の用途制限について、どうすれば立地ができるのかという視点で、関係各課や県とも連携を密にし、解決に向けた方法を見出していきます。



未来志向の土地活用を



魅力ある自然体験の拡充を

答弁 ニーズに合った体験教室の充実を図ります

Q 「豊かな自然」を生かした魅力ある農業体験や自然体験の拡充・充実を。

A 生涯学習課長 公民館講座の「親子わくわくカヌー教室」や、子ども会連絡協議会での「サツマイモの苗植え・収穫体験」などを実施しています。今後も、住民ニーズを把握し、家庭ではできないような体験や教室の拡大を図り、充実させていきます。

Q 再編後の学校図書館（東小・西小・小川中）の充実を。

A 学校教育課長 学校再編は教育環境を充実させる大きな機会です。学校図書館の活用についても、改めて検討したいと考えています。

Q 町立図書館や小川高校図書館との連携で文字文化・情報・歴史・伝統等「知の拠点」としての展開を。



槻川の自然を満喫するカヌー教室

体力づくりのために、週2回は運動するように頑張りたいです。(T・Dさん)

早く仕事を覚え、ミスなく業務を進められるように、頑張りたいです。(S・Yさん)